

雪国の植物 ユキツバキ 35

ユキツバキとヤブツバキの形態の比較:芽および葉縁

石 沢 進

ユキツバキとヤブツバキの外部形態については、これまでの報告を一覧表にまとめている（石沢 2005・表1参照）。今回は、新芽が展開し、茎の先に形成される新しい頂芽や新しい葉の腋芽についてユキツバキ、ヤブツバキとユキバタツバキの比較を試みた。新芽の展開はユキツバキで早く始まり、ヤブツバキが遅れて展開するので、最外部に形成される芽鱗の完成時を目途に比較することにした。その際に肉眼よりも実態顕微鏡で、各部分の形態を拡大することにより、微細な特徴を明らかにしてみたいと考え、写真を撮影した。

芽鱗の完成時（観察日）はユキツバキが5月22日〔東蒲原阿賀町角神産〕、ヤブツバキが6月7日〔佐渡市相川橘産〕、ユキバタツバキが5月27日〔新潟市秋葉区田家産〕であり、ユキツバキがヤブツバキより2週間ほど早かった。新芽の形態については、種類による大きな差異が認められなかった。頂芽および腋芽は、いずれもユキツバキに比べて、ヤブツバキとユキバタツバキの方が、やや丸みがあり、膨らんでいる傾向が見られる。この傾向がそれぞれの種類の特徴であるか、多くの個体についてさらに確認する必要がある。

これまで、ユキツバキの鋸歯が鋭いという印象もあり、その比較を試みた。今回観察した個体では、ユキツバキで鋭く、ユキバタツバキ、ヤブツバキの順に鈍い傾向があり、その印象を裏付ける結果であったが、個体間の変異もあるので、さらに確認が必要である。鋸歯の先端部は、葉の展開時には黒変するのは、各種類とも共通のようである。葉の細脈、特に鋸歯に達する脈がはっきり確認できるのは、ユキツバキの葉裏を観察すると明らかである。

ツバキの花がみられない時期での区別は、従来葉柄の部分にユキツバキは有毛であり、ヤブツバキは無毛であるが、葉の鋸歯の鋭さや葉裏の脈の様子からもある程度可能であろう。

石沢 進（2005）ユキツバキの樹形・外部形態および結実。 プランタ No.99：22 - 32.

表1 ユキツバキとヤブツバキの形態的な比較

生殖器官	ユキツバキ	ヤブツバキ
花		
花冠の形状	平開	盃状
花弁の形	細長い	丸い（円形）
花弁の厚さ	薄い	厚い
雄しべ		
合着部の長さ	短い	長い
花糸	短い	長い
花糸の色	黄色（鮮黄色）	白
葯数	平均 80 本	100 本以上
葯室の長さ	短い	長い
雌しべ		
大きさ	小さい	大きい
子房	小さい	大きい
花芽	小さい	大きい
萼ほう	外側少ないが無毛	外側有毛
果実		
果皮の厚さ	薄い	厚い
室数	3室まれに4・5室	3室
種子		
大きさ	大きい	小さい
種皮の色	茶褐色	黒褐色
種皮の厚さ	薄い	厚い
栄養器官		
葉		
歯柄	短い（平均 8mm）	長い（10mm 以上）
両縁の毛	有毛	無毛
断面	上部に凹み	円形
厚さ	薄い	厚い
内部構造	柵状組織 2 層	柵状組織 1 層
葉脈	細脈まで透ける	細脈不明瞭
茎（幹）	細い（低木）	太い（高木）
その他		
染色体	2n = 30（2 倍体）	2n = 30

*ユキツバキ、まれに3倍体あり（太田・谷田部 1992）

〔プランタ No.99 より転載〕

次頁 写真1の配列と説明

頂芽・葉柄	頂芽	腋芽
1	2	3
4	5	6
7	8	9
1 2 3:	ユキツバキ	
4 5 6:	ヤブツバキ	
7 8 9:	ユキバタツバキ	

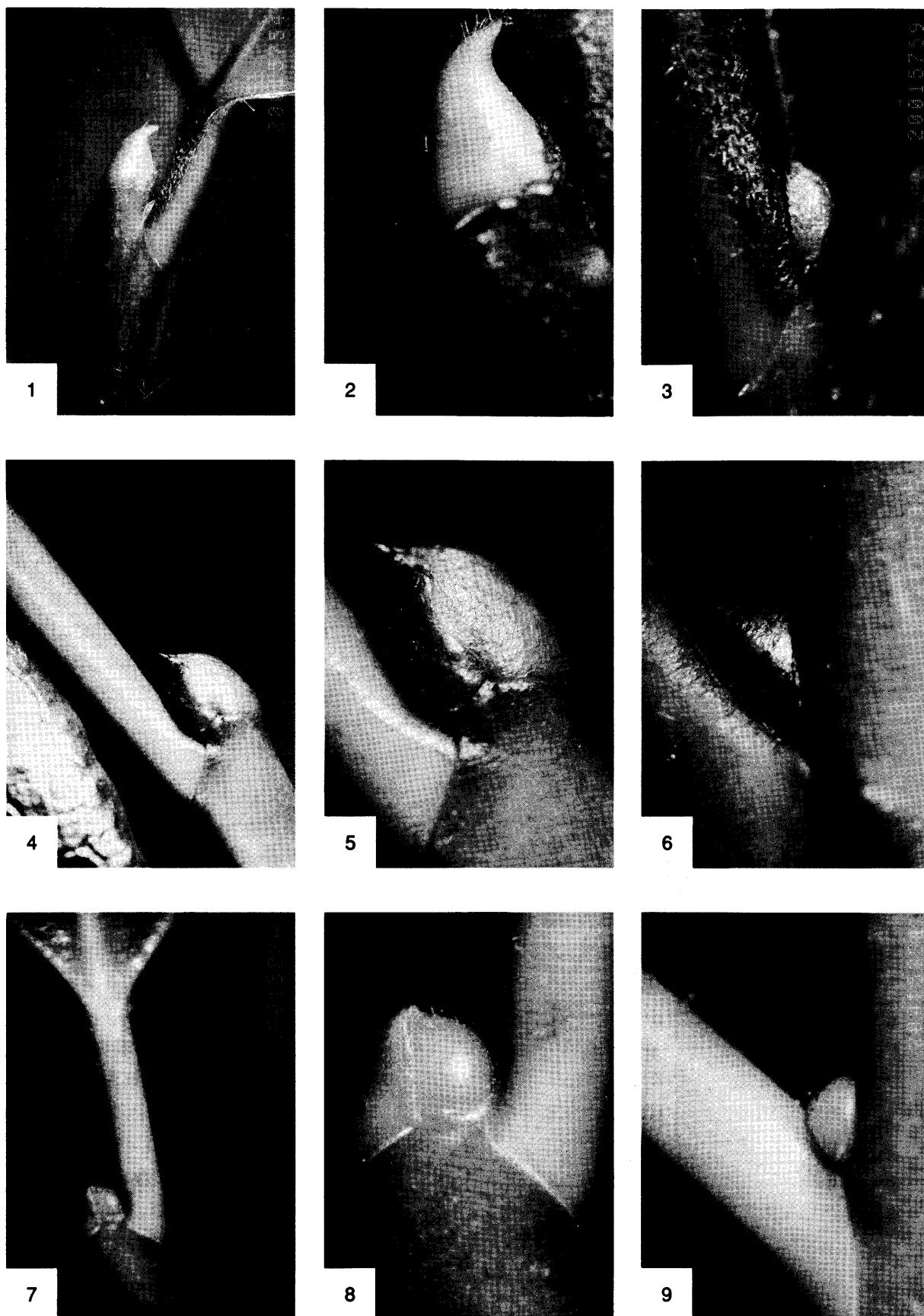


写真1 ユキツバキ・ヤブツバキ・ユキバタツバキの新芽の比較

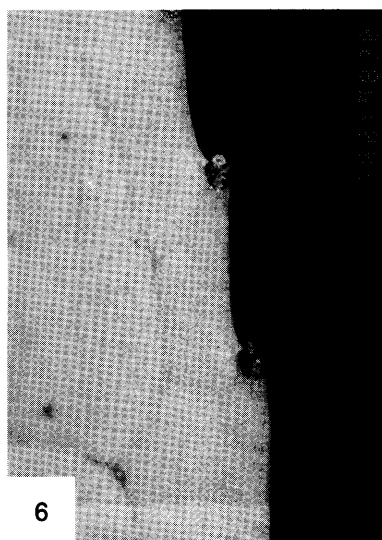
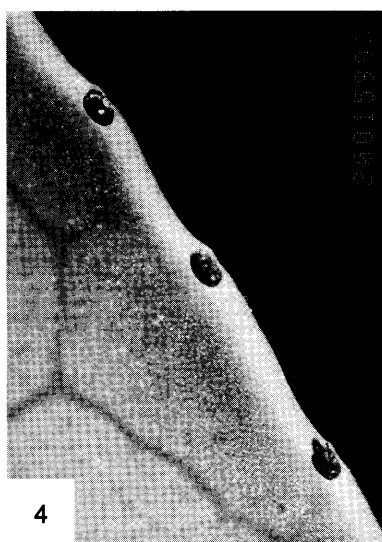
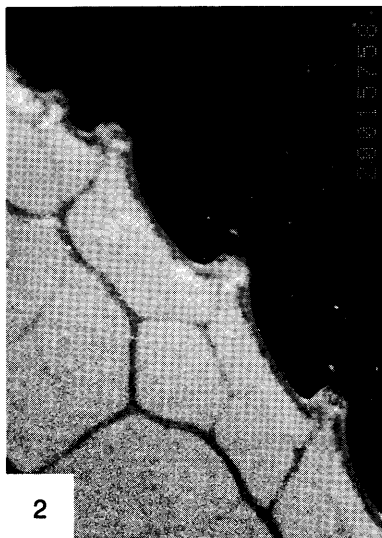
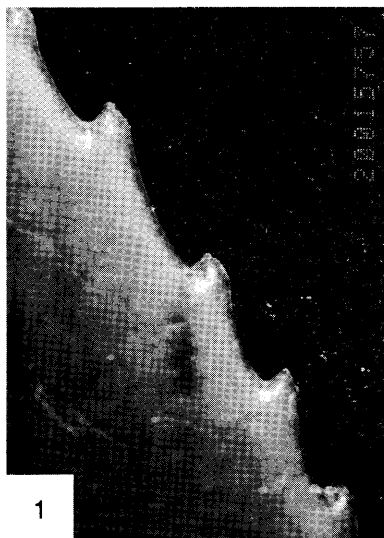


写真 2 の配列と説明

葉表	葉裏
1	2
3	4
5	6
1 2:	ユキツバキ
3 4:	ヤブツバキ
5 6:	ユキバタツバキ

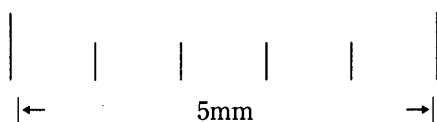


写真 2 ユキツバキ・ヤブツバキ・ユキバタツバキの鋸歯・葉縁（表裏）の比較